



「長年、年休を取得できず捨てているのは理不尽」「休むとヒマだと思われると半休すらくれません」が現場の実態



先週に続き年休買い取りアンケートの続報です。自由記載欄から見えてくるのはコロナ禍の影響です。「コロナ禍の状況が続くことが予想されていたにも関わらず、いつまでも適切な人員配置がされないのは納得ができません。医療者の忍耐や奉仕に期待されるにも限界があります」（松沢 取得日数不明 希望額15,000円）「コロナ感染により職員が休み、その間業務負担が多く年休が取れない」

（墨東 8日 日給分）「コロナで事故休となる職員が多く毎日欠員での業務だった。今の状況で休暇をもらうことは難しいと思う」（広尾 6日 25,000円）

次いで自由記載欄から見えてくるのは不公平感です。多くの組合員が年休取得について不公平を感じており、それが年休取得の少なさと共に大きな問題点となっています。「看護部は平均値しか知らないのか。院内で年休取得状況に大きな差があり、不公平だし、私たちの病棟のことはどうでも良いんだと感じている」（墨東 4日 買い取り希望額祝日日勤と同じ）

「病棟によって取得率に差があることが明らかになってるのに「仕方ないこと」で片づけられている」（大塚 5日 15,000円）「病棟、病院格差があると思います。同じ給料をもらっているのだから公平に」（駒込 10日 10,000円以上）人員不足により平等に年休が取れない現実があるからこそ、買い取りが解決策になるのです。労組ではアンケートの途中経過をHPで公開しています。まだ回答されていない方は回答をお願いします。

都人事委員会 冬のボーナス0.1か月分引き上げを勧告

22年の冬のボーナスは、都の水準で支給されることになっています。そのため都のボーナスをめぐる交渉経過に注目です。都人事委員会が勧告したのは、この諸物価高騰の折にわずか0.1か月分です。「感染症対策と言われプライベートまで制限がかかったままです」（年休アンケートより 駒込）と常に緊張を強いられている病院職員へのボーナスが、わずか0.1か月分のアップでしかないとは、ひどすぎます。今後の都労連の交渉経過に注目しましょう。

